

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの環境デザイン教育展

KEIO SFC STUDIO

<http://ikeda-lab.sfc.keio.ac.jp/exhibition/kss/main.html>

政策・メディア研究科 修士課程2年 EG所属 渡部玲士 (reiji@sfc.keio.ac.jp)

1. はじめに

2009年4月22日から5月10日にかけて代官山ヒルサイド・フォーラムで開催された、「慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの環境デザイン教育展 KEIO SFC STUDIO」の成果報告を行う。

2. 目的

2008年度秋学期に行われた大学院科目の応用環境デザイン演習において、東京都の目黒駅と代官山駅の間位置する敷地に対し、今後行われる再開発事業を想定して建築とランドスケープの提案を行った。今回、対象敷地に隣接するヒルサイド・テラス内においてその成果発表を行うことで、近隣の住民や勤労者からの批評や意見を聞き、提案に対する指標としたい。また総合政策・環境情報両学部の4年生が制作した環境デザインに関連する卒業制作のうち、特に優秀と認められた作品として卒業制作賞が贈られた作品を同時に紹介する。これにより、慶應義塾大学における環境デザインの活動自体を多くの人に知ってもらうことを目的とする。

3. 内容

3.1 概要



場所： 東京都渋谷区猿楽町 18-8 ヒルサイド・フォーラム

会期： 2009年4月22日(水)～2009年5月10日(日)

4月26日(日) シンポジウム(トークセッション、公開レビュー)

3.2 趣旨

観察やリサーチを空間の利用や形態の設計提案に結びつけ、場所の潜在力やデザインの可能性を考える事を目的とした応用環境デザイン演習では、代官山駅と中目黒駅の間位置する敷地の南側にある国鉄精算事業団上目黒宿舎の跡地周辺を対象とした。東京都は中目黒と代官山を結ぶ2つの魅力を活かした街づくりを進める事を目的に再開発コンペティションを計画している。周辺の自然や街並みを活かし、地域の回遊性を高める民間のプロジェクトを誘導し、日常に文化を感じるゆとりある空間を整備する事が望まれている。我々は、歴史・都市計画・景観等の視点からこの地域の分析を行ない、新たな環境の魅力の創造を目指して、その将来像を模索した。最終的に提案としてまとまった5の作品を展示した。卒業制作賞は学生の発憤と研鑽を促し SFC 環境デザイン教育の水準を高める事を目指し、厳正な公開審査を経て選定した作品を伊藤滋賞として表彰された。学生が敷地やテーマの選び方から独自の問題意識をもって組立てた作品群の中から、5つの受賞作品を展示した。

3.2 出展作品

HILLSIDE RIVERSIDE 旧国鉄精算事業団上目黒宿舍跡地を考える 5 作品



DIPLOMA WORKS 環境デザインの卒業制作優秀作品展 5 作品



3.3 シンポジウム

4月26日、ゲストとして第一線で活躍する建築家である槇文彦氏、千葉学氏と太田浩史氏を招き、本大学教授である池田靖史教授、小林博人教授、松原弘典教授を交えたトークセッションとレビューを公開形式で行った。各作品の批評だけでなく、慶應大学の環境デザイン教育の現在とその展望に関する議論が、多くの来場者に見守られる中展開された。



4. 成果と今後

3週間にわたる展示期間で、シンポジウム当日を含め約500人の来訪者を迎えることができた。HILLSIDE RIVERSIDEは対象敷地が実際に今後どのように開発されるかが地域の人々の中でも大きな問題となっているため、地域でも大きな話題となり、周辺住民から多くの意見を伺うことができた。DIPLOMA WORKSは特に他大学の教育者や学生からの興味を集めていた。慶應大学の環境デザイン教育は未だ十分世間に認知されているとは言いがたいが、今回のプロジェクトによって認知度は確実に高まったと言える。シンポジウムでの国際的に活躍する建築家の方々による講評は、確実に学生の活動の指針となり、SFCにおける教育の個性や特徴を知る機会でもあり、また最も多くの来場者を迎えた。SFCでの教育現場を多くの人に発表する機会として非常に有効であったと言える。今後も環境デザインに関わる活動の成果発表の場として、定期的を開催したい。

5. 謝辞

本プロジェクト実施において、シンポジウムのゲストの皆様、ご来場された皆様、そして協力頂いた池田研究室学生の皆様に感謝したい。本研究は、2009年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」の支援の下に行なわれた。